



JCLIFE

2019年
7月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



6月例会



本例会は、「豪雨災害の経験から次の災害に備えて」と題して、大前慶倫委員長を中心とした地域活性化促進委員会が、昨年の豪雨災害の検証を踏まえて、次の災害に向けて我々が何をすべきか考えることがテーマでした。

気づきや課題を再認識するとともに、次に災害が起きた際にどのような活動が必要かをメンバー一人ひとりが考える機会となりました。

また、昨年の活動の中で、メンバー自身も知らない地域や他団体の活動などを共通認識として知り、次に起こりうる災害活動にどのように活かすか、学ぶことが出来ました。

災害が起こってから、どのように動くか、も大切ですが、日頃から災害のリスクを減らす減災について、意識して取り組んでいくことも重要です。

非常に考えさせられる例会となりました。

(記事：吉田 高正)



事業PRキャラバン

公益社団法人 日本青年会議所 中国地区協議会の皆さまが、「地区コンファレンス2019 in HIGASHIHIROSHIMA」のPR活動にお越しくださいました。

また、同日、公益社団法人 日本青年会議所 中国地区協議会、広島ブロック協議会の皆さまが、「広島ブロック大会 in 庄原」のPRにお越しくださいました。

地区コンファレンスは8月18日(日) 広島ブロック大会は9月15日(日) 開催されます。尾道青年会議所からも、多くのメンバーが参加して、素晴らしい事業となるよう、サポートしてまいります。

(記事：村橋 聡)



この度、公益社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会2019年度SDGs推進委員会の委員長を拝命している高山敦好と申します。

今年度、日々のJIC活動においてSDGsへの貢献と、参加の方針が大きく打ち出され、広島ブロック協議会としてSDGsの考え方、JICとのブラッシュアップの仕方等、SDGs推進元年として活動しております。

SDGsとは持続可能な世界を目指すために2030年までの開発目標を共有し、全世界で活動を起こしていこうという取り組みです。

ただ、突然持続可能な世界への取り組みと唱えられても、何から始めていいのか、何をしたらいいのか、私には関係ないと思われる現状があります。

私も現在までそうでしたが、私たちはどこかで、この世界が続くのであるのか、日本では少子高齢化社会から来る年金問題、昨今の災害など、少なからず気づいているに

もかわらず、目をつぶってきている事はないでしょうか。

私たちの世代で出来ることなのか、そのことが未来につながる第一歩と気づき、行動を起こさなければ他人ごとではないという事に気づいていただければ今年度SDGsへの理解を広げていければと事業を展開しております。

これから先の社会をつくる私たち、その次の世代の人たちと持続可能な世界を意識しながら行動していく、そして何よりパートナーシップを大切とするJIC活動にも目を向けてもらえるよう取り組みをまいります。

今年度のSDGs推進に何卒ご理解ご協力の程何卒よろしくお願いたします。
(記事：高山敦好)

Public Private ACTION for Partnership!!
～SDGsで日本を元気に、世界を元気に
その主役はあなたです!～

愛媛ブロック大会

6月8日(土) 愛媛ブロック協議会 ブロック大会の記念事業に事務局とあるべき姿探究委員会に参加して参りました。

朝早くから委員会メンバーの協力の下、今治でプロイラーやレモンイカ天を販売して参りました。

尾道の魅力ある商品をピーアールできと思えます!

委員会メンバー以外のLOMメンバーも手伝いに来て頂き、大変盛り上がりました。

ありがとうございます!

(記事：村橋 聡)



祇園祭

6月29日(土)、尾道祇園祭 三体廻しが行われました。

尾道青年会議所からは、大前委員長を始めとする地域活性化促進委員会が、警備を担当しました。

あいにくの雨でしたが、一つ巴、二つ巴、三つ巴が幟の周りを全力で周る姿は大迫力で、多くのお客さまを楽しませていました。

伝統文化に携わることが出来るのも、青年会議所活動の大きな魅力ですね。

(記事：吉田 高正)



西日本豪雨から1年

2018年(平成30年)6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が起きました。



同年7月9日に気象庁が西日本豪雨と命名しました。

「平成最悪の豪雨災害」をもたらした西日本豪雨。広い範囲で土砂崩れや河川の氾濫が多発し、被害は甚大となりました。



尾道市の被害状況ですが、人的被害は、合計11件発生しております。内訳は、死亡3件、重傷2件、軽傷6件となっております。死亡3名のうち2名は桜町、坊地町の土砂崩れが原因であり、1名は御調川で流れ、府中警察署に届けられました。

住宅家屋被害は、合計651件発生しております。内訳は、全壊31件、大規模半壊12件、半壊33件、一部損壊139件、床上浸水155件、床下浸水281件となっております。床上浸水155件の内半分の78件は、因島中ノ庄町で発生し、新開、丸池、徳永、の地域が、樋門の排水ポンプの故障のため浸水しました。



続きまして、ライフラインの被害状況ですが、全体で、2469戸発生しております。内訳は、断水2324戸、停電145戸となっております。断水は、沼田川水道事務所の本郷取水場が浸水の為、ポンプが停止し、尾道市高須町の坊土浄水場まで原水を送れなくなったためです。最も長い地域で7月8日から7月21日まで、14日もの長い断水期間となりました。



尾道JCとして、情報を共有するため、全体のLINEグループを設立。各支援チームの責任者を決定し、役割分担(資金管理チーム・物資支援チーム・人的支援チーム・情報収集チーム)を明確にしました。

資金管理チームでは、被災地への義援金を集めるため、メンバー・特別会員・各地青年会議所への通知を行いました。

情報収集補助チームでは、災害対策本部、各チーム及び連絡する団体、尾道市、社会福祉協議会との情報を共有し、情報の交通整理を図りました。

物資支援チームでは、被災地や行政より要求された物資の調達、支援物資の整理を行いました。



人的支援チームでは、社協からの要請を受け、ボランティアに参加可能なメンバーを取りまとめ、ボランティア

活動への参加依頼を行いました。

各地青年会議所からも、ボランティアの支援、または、物資の支援等多くの援助をいただきました。



復興事業の一環として、尾道青年会議所主催により復興チャリティーイベント～circle of smile～を開催いたしました。



本事業により市民の皆さんに防災について楽しんで学んでいただきながら、チャリティー物品の販売等を行い、その収益の全てをこの度の災害の義援金として寄付いたしました。

尾道JCは、西日本豪雨での経験を活かして活動し、伝えていかなければなりません。青年会議所の三信条の1つに「社会への奉仕」があります。西日本豪雨の際には、我々と同じように各地青年会議所でも問題を抱えながら行政などと連携し、多くのメンバーが主体的に災害復旧や復興支援などで活動しました。その中で、行政との連携や、情報の錯綜、LOM内での意見の食い違いなど共通の問題点もありました。

当時は、初めての経験だったので、皆さん悩まれました。「次の災害に備えて」何をしなければならないのか、災害のケースは様々ですが、「自助」「共助」そして災害に対しての備えといった根本は変わらないと思います。また、災害を防ぐのは、不可能です。だからこそ災害による被害を少しでも減らす「減災」が大事だと考えました。

専門家の意見では、日頃のちょっとした工夫、備え、気づきで災害による被害を軽減することが出来るそうです。そして、それは、7つのポイントからなっているそうです。

- 自助・共助
- 地域の危険を知る
- 地震に強い家
- 家具の固定
- 日頃からの備え
- 家族、会社での防災会議
- 地域とのつながり

事前にこれらの知識や情報を共有し、対処方法を相談しておけば、いざという時に冷静に行動することができるのだそうです。

日頃からの心構えと備え、そして、ひとりひとりが防災意識を高める事が、重要ではないかと考えております。今後起こりうる災害に対して、経験を踏まえ、更なる知識を身に付け、臨機応変に対応できる家庭、職場、組織作りが必要であると考えます。

災害が発生して、安否確認や行政との連携といった敏速な対応、JCの強みを活かした正確な情報の発信が大事なのではないかと考えます。

JCは、まちづくりの団体です。まちづくりは、人づくりです。その為には、防災に対する知識と意識を向上させる事が大事だと考えます。当委員会では、今後、市民と共に防災意識を向上する事が出来る様な事業を展開して行きたいと考えております。

(記事：大前 慶倫)

委員会報告



● 活気溢れる組織作り推進委員会

活気溢れる組織作り推進委員会の岡田健吾でございます。

当委員会は7月16日に尾道ロイヤルホテル屋上にて行われる、浴衣会について委員会メンバー一丸となり準備を進めております。

今回は、現役メンバーのみで行われるということもあり、お越しいただくメンバーの方に最高のおもてなしと、楽しかったと思っただけのような催しを考えております。

更には下半期から行われる、全体事業への為に委員会内だけでなく、青年会議所メンバー全員での結束を深めて頂けたらと思っております。

当委員会が誇るメンバーの知識や技やキャラクターをこの浴衣会では味わっていただこうと思っております。

宜しく願い致します。 押忍!活気!

委員 岡田 健吾



● 次代を担う宝育成委員会

次代を担う宝育成委員会委員長の加藤です。

当委員会では本年度、「食」というテーマの下で活動しておりますが、活動お中で、「きょう食」という言葉に出会いました。意味合いや解釈の仕方は様々ですが、以下のような言葉が挙げられます。

共食:一緒に食べる/協食:協力して食べる/教食:食を教わる(教える)/今日食:今日食べられる食を大切に/京食:京都発祥の江戸時代の和食/器用食:箸が上手に使えるように/清う食:味覚が整い、心や体がきれいに/起用食:体を目覚めさせる/喜陽食:ニコニコ楽しく

個人的な話になりますが、私自身近年は朝食をないがしろにした生活を送っていましたが、今年に入ってからは毎朝食卓について、なるべく子ども達と同じ朝食を摂るようにしています。

一日を気持ち良くスタートできますし、家族とのコミュニケーションの時間にもなります。子どもたちの食べる量が増えていることや食や味の好みも変化していることも、恥ずかしながら朝食を共にすることで気づくことも多々ありました。

仕事やJC活動などで夜家を空けることが多いメンバーもいらっしやるかと思しますので、朝食を家族と【きょう食】してみようということも一つ意識してみたいかがでしょうか。

委員長 加藤 雄大



● 地域活性化促進委員会

地域活性化促進委員会の沼田剛志です。当委員会ではべっちゃん祭やみなと祭りなどの祭事や防災について事業を進めてまいりました。

6月例会では「豪雨災害の経験から次の災害に備えて」というテーマのもと、昨年の西日本豪災を振り返り、次に起こり得る災害時に備えてどのような活動が出来るのかを考える例会を開催いたしました。

現在では祇園祭等の祭りに参加しつつ、テーマを防災としたメイン事業に向け日々委員会メンバーで議論を重ねております。当該事業では、市民の方々を対象に防災意識を向上して頂くべく事業を進めてまいりますが、事業を成功させるためには皆さまのご支援、ご協力が必要不可欠と思っております。今後とも大前委員長率いる当委員会をよろしく願いいたします。

委員 沼田 剛志



● 総務広報委員会

総務広報委員会、内海洋平です。

総務広報委員会では、多くの方に尾道青年会議所活動を知っていただくために、何が出来るかを考え、日頃から取り組んでいます。各事業に参加させていただきながら、現場でのリアルな声をお届けしたり、関わって



● 地域の魅力創造委員会

地域の魅力創造委員会の小西琢真です。4月例会では「承前啓後～尾道のお寺と商人」と題して、西国寺で行いました。駐車場が少なく皆様にはご迷惑をおかけしましたが、それでも多くの方に出席していただき、またアンケートでも良かったという声を頂き大成功だったと思っています。

しかし、大本委員長が4月例会を西国寺でやると宣言した時は、うまくいくのか半信半疑でした。会場は?駐車場は?夕食は?問題点ばかり思い浮かびました。そんな私の疑問に大本委員長は情熱をもって一つ一つ答えてくれました。その一方で、アフターでは委員長としての不安や苦勞を話してくれました。不安と不確定の中、例会の準備を進めていく姿は、当初抱いていた飄々としたクールなイメージとは全く違うものでしたが、残りの一年この委員長を信じてついていこうと思えた姿でした。

残りの事業でも皆さんに地域の魅力を伝えていけるよう頑張っていきますのでよろしくをお願いします。

委員 小西 琢真



● あるべき姿探究委員会

あるべき姿探究委員会の山本圭介です。あるべき姿探究委員会は、「尾道の地域と繋がりたいたい」を委員会テーマに掲げ、下半期の事業構築を急ピッチで行っている最中です。紆余曲折ありましたが、決まったからには前進あるのみで、委員会メンバー一致団結して、より良い事業にしていきたいと考えております。

また、10月例会の企画も同時進行しております。人としての資質の向上をテーマに例会の話し合いを行っています。どうやったら、分かり易く且つ深く探究できるか試行錯誤していますが、必ず良い例会にしようと思っております。

事業・例会と下半期大変ですが、委員会メンバー皆で踏ん張って参ります。

委員 山本 圭介



● 拡大研修委員会

7月に入りまして、今年度の拡大活動も一区切りといった感じですが、6月末の時点で18名の仮入会申込書を頂いております。これも偏にご協力頂いた皆様方のお陰と思っております。ありがとうございます。

また5月例会には多くの方にご来場頂きまして、ありがとうございます。岡田会長の講演は良かったのでしょうか。皆様のチャレンジ精神に火をつけられるような講演会であったなら幸いです。

さて拡大研修委員会としては今後、11月のバッジ授与式に向けて仮入会員への研修事業を主に行っていく予定です。新入会員20名という目標には未だ達してはいませんが、まだ少なからず望みが残っているような状態ですので、多くの新入会員とともに11月バッジ授与式を迎えられるよう最後まで諦めず一致団結して努めていきたいと思っておりますので、引き続きのご協力の程よろしくお願い致します。

委員 魚谷 香緒里

くださる方の素敵な表情を捉えたりすることにこだわっています。

今後の事業として、新理事研修、9月例会、卒業例会と目白押しですが、一つ一つの事業に想いと情熱を乗せて、関わってくださる方全てにお役に立てるよう、活動してまいります。

とりわけ、9月例会では、公開例会を実施しますので、多くの方にご来場いただけますよう、よろしくお願い致します。

委員 内海 洋平



梅雨に入り、蒸し暑い日々が続いています。娘2人がミニバスの練習を頑張っていますが、体育館はサウナ状態です。私が学生の時は「練習中に水を飲むな」で育ってきましたが、今はそうはいきません。体調管理も大事な練習の一環です。皆さまも、くれぐれも熱中症などにお気をつけください。(記事:岡田 貴臣)

